



帯広市では、社会総掛かりで子どもの学びと育ちを支える仕組みづくりを進めています。コミュニティ・スクール（CS）は、学校・家庭・地域が目標を共有して、ともに子どもを育む取組です。

開西小地区のコーディネーターの取組を紹介します

開西小学校では、令和6年7月21日(日)に「開西まつり」を開催しました。

中心となって地域の方と学校とをつなぐ役割（コーディネーター）を担ったのがPTA会長でもある堂場賢一さんです。準備から当日実施に至るまで、堂場さんの活躍をインタビューさせていただきました。

Q.開西小まつりはどのような催しですか？

楽しい行事を通じて親子のふれ合いを一層深めること、色々な運動や伝承遊びから子ども同士や会員相互の親睦を深めることを目的として毎年行われている催しです。コロナ禍は中止しておりましたが、今年度から制約をなくして開催することができました。



Q.コーディネーター、学校、地域の方はどのような役割を担いましたか？



コーディネーターは、学校との調整、各ブース担当者との予算決め、準備進捗状況の把握などを行い、当日は各ブースがスムーズに運営できているかなど、全体のとりまとめを行いました。学校は子どもたちへの呼びかけや、交付金の申請などを行いました。地域の方には、主に当日の運営をしていただきました。

Q.特に大変だったこと、苦労したことを教えてください。

数年ぶりの開催だったため、以前の催しの概要を知っている役員がおらず、過去にどんな問題点があったのかが分からず、手探りの状態で準備を進めていました。また、道具の保管場所や必要な備品の確保については、当時の写真や資料を参考にしていました。



Q.当日の様子はいかがでしたか？

私が青連協の役員も兼任していた繋がりや、青連協の理事の方々にバルーンアートの講師派遣という形で参加していただき、開西まつりを一段と盛り上げてくださいました。当日は215名の児童が参加し、久しぶりの開西まつりを心から楽しんでいるようでした。無事に終わることができて良かったです。

コーディネーターの動き

<4月末>

○開西まつりの日時決定。
各ブースの仮案も検討する。

<6月中旬>

○各ブースの概要が確定する。
（予算や担当者など）
○ボランティアの一次募集を始める。

<6月下旬>

○ボランティアの二次募集を始める。

<7月上旬>

○景品の購入。
○物品の確認や、当日の流れの打ち合わせを行う。

<前日>

○一部ブースの事前準備。

<当日>

8時半 …役員・ボランティア集合、準備。
9時 …子どもたち集合。
9時半 …開西まつり開始。
11時半…開西まつり終了。片付け。
12時 …完全撤収。

今回開西小地区で実施した事業にて活用した「こども学校応援地域交付金」は、地域の様々なボランティア団体が協力して、子どもたちのために行う活動を支援するものです。

「他の団体や学校と連携した新たな活動をしてみたい」「これまで行ってきたイベントをもっと多くの団体と連携して取り組みたい」など、より活動を充実させるために交付金を活用してみませんか？

詳しくは下記問い合わせ先、もしくは帯広市HPをご覧ください。



【発行・問合せ先】

帯広市教育委員会 学校教育部 教育総務室 学校地域連携課

TEL：0155-65-4162

Email：school_cooperation@city.obihiro.hokkaido.jp

帯広市 コミュニティ・スクール

検索



（令和7年3月13日発行）

